（様式第３号）

平 成 19 年 度 調 査 研 究 中 間 報 告 書

調査研究課題	ブタインフルエンザウイルスの分子進化学的調査
計画期間	平成１７年度～１９年度　３年間
調査研究計画	新型インフルエンザウイルスの登場に際して、ブタが様々な場面で重要な役割を果たしていることが過去の研究で明らかとなっている。将来日本においても新型ウイルスの登場は十分予想されることであり、これを捕捉できる体制作りの一環として本調査を行う。また、これに関連してブタ由来ウイルスに限定することなく、特殊な亜型のウイルスに対する人間や家畜における抗体価の推移についても随時計測を行う必要性があり、これに関しても検討を加えていきたい。 インフルエンザウイルスの種間伝播の可能性を日本において調査した報告はあるが、その証左は得られていない。よって本調査の持つ意義は十分あるものと考える。また、これに付随する各種検出検査法の検討に関しても病原体の検知という観点から大変重要である。
進歩状況	平成 18 年 9 月から茨城県筑西市の筑西食肉センターにおいてブタ鼻腔より採材を適宜行い、19 年 3 月までに計 200 検体を採取し、検体を細胞に接種してウイルス分離を試みたがウイルスは分離されなかった。同時に血液（血清）を採取し、抗ウイルス抗体価を測定する準備を進めている。また、これに関連して抗ウイルス抗体検出のための試験（HI 試験、中和試験等）についても検討を加えるべく準備を行い、一部については検討を行った。
これまでの成果の概要	検体からウイルスは分離されなかった。しかし検体の由来が健康家畜であるので、分離結果が陰性であるということは病原体の浸淫の可能性が低いことを示唆しており、一定の評価が出来るものと考える。血清を用いたウイルス抗体価の測定については、ウイルス抗原を入手すべく国立感染症研究所に申請を行う予定である。抗ウイルス抗体検出試験関連では、特定の亜型ウイルスに対して一定の条件下で novel な事象が発見されたところであり、更に解析を加える予定である。
今後の計画・課題対応方法	本調査では特殊なタイプのウイルスが分離されることが考えられる。頻度はかなり低いと言わざるを得ないが継続して調査体制を継続することで結果がついてくるものと考える。